

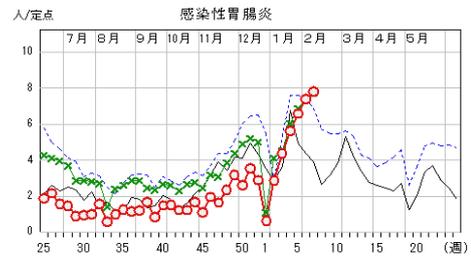
長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2025年第7週 2025年2月10日（月）～2025年2月16日（日）2025年2月20日作成

☆定点[※]報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

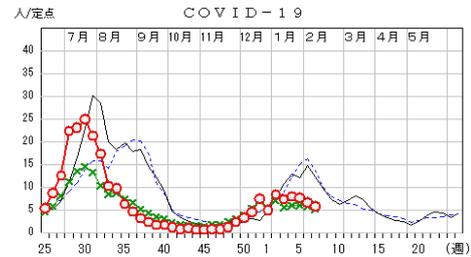
（1） 感染性胃腸炎

第7週の報告数は343人で、前週より18人多く、定点当たりの報告数は7.80であった。
 年齢別では、1歳（53人）、2歳（44人）、4歳（42人）の順に多かった。
 定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（16.33）、佐世保市保健所（14.67）であった。



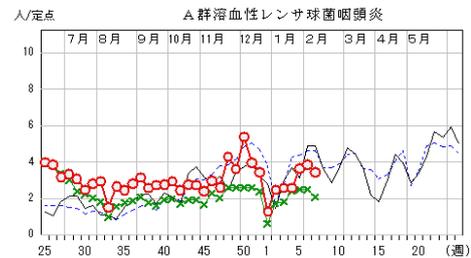
（2） 新型コロナウイルス感染症

第7週の報告数は411人で、前週より58人少なく、定点当たりの報告数は5.87であった。
 年齢別では、10～14歳（53人）、80歳以上（47人）、40～49歳（43人）の順に多かった。
 定点当たり報告数の多い保健所は、上五島保健所（25.33）であった。



（3） A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第7週の報告数は152人で、前週より17人少なく、定点当たりの報告数は3.45であった。
 年齢別では、10～14歳（34人）、5歳（17人）、7歳（16人）の順に多かった。
 定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（15.40）であった。



○—○ 当年(長崎県) — 前年(長崎県)
 ×—× 当年(全国) - - - 前年(全国)

※インフルエンザ/COVID-19定点数：70、小児科定点数：44、眼科定点数：8、基幹定点数：12

☆上位3疾患の概要

【感染性胃腸炎】

第7週の報告数は343人で、前週より18人多く、定点当たり報告数は7.80でした。地区別にみると、県北地区（16.33）、佐世保地区（14.67）は他の地区より多くなっています。6週続けて患者数が増加していますので、今後も動向に注意しましょう。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

【新型コロナウイルス感染症】

第7週の報告数は411人で、前週より58人少なく、定点当たり報告数は5.87でした。地区別にみると、上五島地区（25.33）は他の地区より多くなっています。年代別では、10歳未満（21%）、10代（19%）、80歳以上（11%）の順に多くなっています。今後も動向に注意しましょう。

本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第7週の報告数は152人で、定点当たりの報告数は3.45でした。地区別にみると県南地区（15.40）は、警報レベルの報告数となっています。

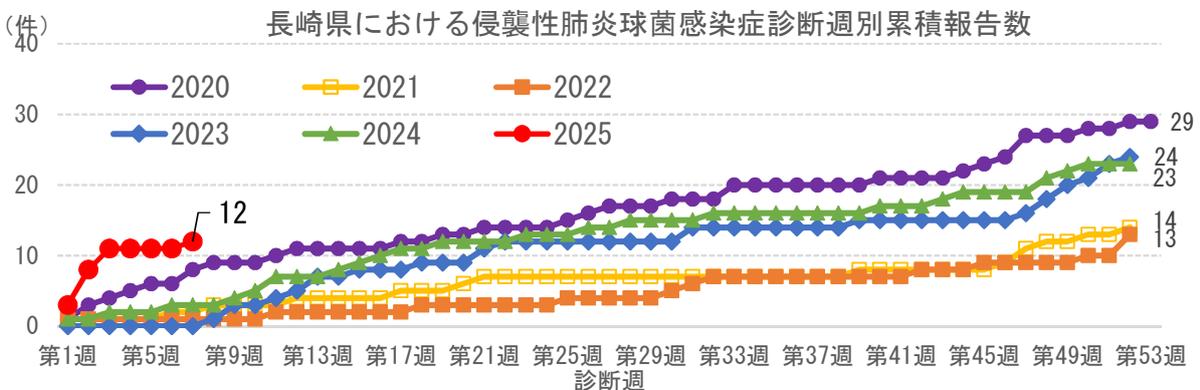
本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。症状がある場合は、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

☆トピックス：侵襲性肺炎球菌感染症の報告が多くなっています

侵襲性肺炎球菌感染症の原因となる「肺炎球菌」は、多くの乳幼児が鼻咽頭に保菌しているといわれています。この菌が感染すると、肺炎や中耳炎、副鼻腔炎、髄膜炎などを引き起こします。小児および高齢者を中心とした発症が多く、成人の肺炎の約2、3割は肺炎球菌が原因といわれています。肺炎球菌による感染症のうち、血液や髄液などの通常では菌が存在しない部位から菌が検出された場合に「侵襲性肺炎球菌感染症」の報告対象となります。

長崎県では2025年第7週までに12件の報告があり、過去5年の同時期より多くなっています。

感染経路は、接触感染および飛沫感染で、予防には手洗い・うがいやマスクの適切な使用などの基本的な感染対策が重要です。また、肺炎の発症・重症化予防に一定の効果のある、65歳の方などを対象にした定期接種のワクチンがあります。特に高齢の方や基礎疾患をお持ちの方は、感染予防に努めましょう。

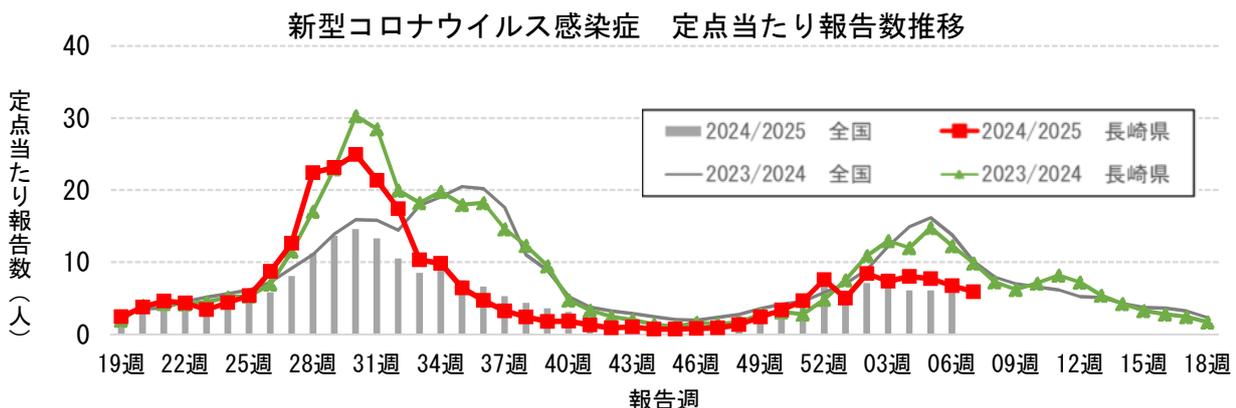


☆トピックス：新型コロナウイルス感染症に注意しましょう

新型コロナウイルス感染症の長崎県における第7週の定点当たり報告数は「5.87」でした。

年代別にみると、10歳未満（21%）、10代（19%）、80歳以上（11%）が多くなっています。

3週続けて減少しましたが、今後も場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。



☆トピックス：感染性胃腸炎を予防しましょう

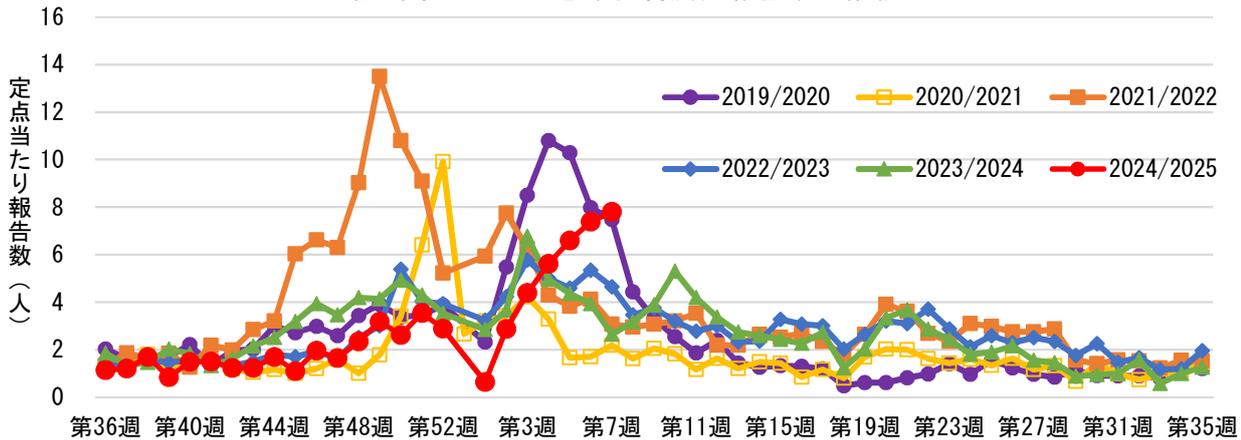
本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。

感染性胃腸炎の第7週の定点当たり報告数は「7.80」で、6週続けて増加しています。

例年冬期に患者数が増加するのがノロウイルスによる胃腸炎です。ノロウイルスの潜伏期間は1～2日で症状の持続期間は数時間～数日です。症状は他の胃腸炎ウイルスと同様に嘔気、嘔吐、下痢が主で、腹痛や発熱を認める場合もあります。乳幼児から成人に至るあらゆる年齢に感染します。また、ノロウイルスは食中毒の原因としても検出されるウイルスです。

予防には手洗いが重要です。手洗いを励行し、体調管理を行い、感染防止に努めましょう。

長崎県における感染性胃腸炎報告数の推移



☆トピックス：インフルエンザに注意しましょう

インフルエンザの2025年第7週の定点当たりの報告数は「2.10」で、5週続けて減少しました。県全体では、第5週に警報レベル終息基準値「10」を下回り、流行警報が解除されました。

地区別にみても、すべての地区で警報終息基準値を下回りました。

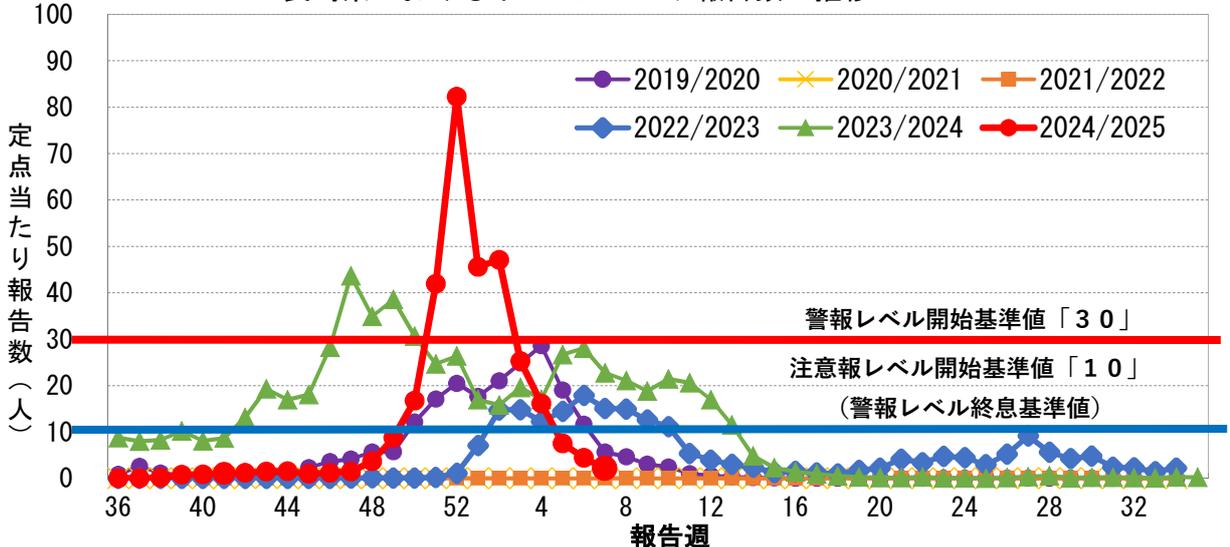
年代別では、10歳未満（41%）、10代（22%）が多くなっています。

また、長崎県環境保健研究センターにおいて、2024/2025シーズンに搬入された検体から、インフルエンザA/H1pdm09の遺伝子が多く検出されています。

今後も手洗いの励行、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策に努め、感染予防を心がけましょう。

発生状況について、長崎県感染症情報センターホームページ内「インフルエンザ」にも掲載しています。

長崎県におけるインフルエンザ報告数の推移



◆全数届出の感染症

2類感染症：結核 患者 女性（80代以上・2名）

3類感染症：報告なし

4類感染症：報告なし

5類感染症(全数把握対象)：カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 患者 女性（80代以上・1名）

侵襲性肺炎球菌感染症 患者 男性（10歳未満・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第2～7週、1/6～2/16)

疾患名	定点当たり患者数					
	2週	3週	4週	5週	6週	7週
	1/6～	1/13～	1/20～	1/27～	2/3～	2/10～
インフルエンザ	47.06	25.27	16.14	7.51	4.40	2.10
新型コロナウイルス感染症	8.41	7.36	7.99	7.71	6.70	5.87
RSウイルス感染症	0.23	0.11	0.18	0.36	0.36	0.55
咽頭結膜熱	0.34	0.20	0.25	0.32	0.32	0.34
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	2.48	2.57	2.57	3.66	3.84	3.45
感染性胃腸炎	2.86	4.39	5.61	6.59	7.39	7.80
水痘	0.41	0.14	0.36	0.18	0.39	0.16
手足口病	0.23	0.23	0.16	0.09	0.11	0.02
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.27	0.48	0.32	0.34	0.30	0.07
突発性発しん	0.14	0.23	0.23	0.16	0.34	0.25
ヘルパンギーナ						
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.02	0.05	0.02		0.05	
急性出血性結膜炎	0.13	0.38	0.38	1.00	0.25	0.38
流行性角結膜炎	1.88	2.63	1.50	1.63	1.38	1.75
細菌性髄膜炎						0.08
無菌性髄膜炎			0.08			
マイコプラズマ肺炎	0.75	0.83	0.50	0.50	0.25	0.50
クラミジア肺炎（木ム病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）			0.08	0.25	0.08	

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第7週、2/10～2/16) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	2.10	1.55	1.82	0.67	0.83	2.45	1.88	5.25		9.00	0.67
新型コロナウイルス感染症	5.87	5.91	4.65	2.33	5.33	5.09	5.00	4.50	2.25	25.33	9.67
RSウイルス感染症	0.55	1.50	0.50		0.25	0.14	1.20	0.67			
咽頭結膜熱	0.34	0.33	0.30		0.50	0.43	0.20	1.33			
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	3.45	2.33	0.70		2.25	1.86	15.40	5.67	2.33		4.00
感染性胃腸炎	7.80	14.67	9.70		9.50	7.00	4.40	16.33			
水痘	0.16	0.33	0.30			0.14		0.33			
手足口病	0.02		0.10								
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.07		0.30								
突発性発しん	0.25	0.83	0.20			0.29		0.67			
ヘルパンギーナ											
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）											
急性出血性結膜炎	0.38		0.67				1.00				
流行性角結膜炎	1.75		3.67				3.00				
細菌性髄膜炎	0.08		0.33								
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎	0.50	1.00	0.67		1.00	1.00	1.00				
クラミジア肺炎（木ム病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											